

文錙藝術中心 獲日雜誌報導

學校要聞

【本報訊】文錙藝術中心日前獲日本《千趣万香》10月號雜誌報導。該雜誌「台北俱樂部」專欄中，可看見主任張炳煌揮毫的身影，文內述說其傳承書法教育的精神，並以圖文引領讀者了解文錙藝術中心、數位e筆及海事博物館等，更介紹數位e筆特色。張炳煌表示，「此為日本藝文類雜誌，內容囊括日本及全球藝術文化，很榮幸有機會宣傳本校在推廣藝文教育之特色。除此之外，我近期利用假日遠赴馬來西亞、韓國、澳門等地進行書法展出，透過每次的交流，期能增加淡江在藝術領域的國際能見度。」

千趣万香

30 ブログページ

2016 October

目次

誌上ブログ

西安俱楽部

アトリエ訪問「中国伝統美術作家・施炳煌」
中国必見! 美術館博物館ガイド②「西安交通大学博物館」
寄稿経験「謝振威」

台北俱楽部

名所散歩「九份」
ぐる名店「鼎泰豐」

ソウル俱楽部

アトリエ訪問「金澤東」
グル名店「明洞/道士窟」
ソウル必見! 美術館博物館ガイド①「国立古宮博物館」

アーカイブ特集③

「王羲之全書館」(妙) (1)

ぶらぶら美術展散歩②

「土門康男のなんでも見てある記」



萱原書房

台北俱楽部

ニーハオ! 張炳煌老師!!

(ノ)に向けて寝られないのである。
で、今後も皆様この機会では、
一枚のスキャンでもって、先生の
墨跡を「orro」していただい
うのが、これまた主幹の命令で
ある。乞ご期待! (大史)



淡江大学 文鑑芸術中心(1)

張炳煌先生が教授として書法研究室主任・文鑑芸術センター所長を務められている淡江大学のキャンパスは、いわば台北の「都の西郷」淡水の河口に「よ」といった風景の、東にそびえる名勝陽明山の西麓。淡水河の河口から東シナ海に突き出しひた岬の付け根に位置する風光明媚なエリア。新北市淡水区にある。

台北市の中心・台北駅(台北車站)からJR淡水駅と新北市駅までの淡水までの約10分ほどの距離。駅前から急な坂道を登る形になるキャンパス内の通学路は、お年寄りの先生方に「ちょっときつい」と感じだが、張炳煌は台北の古色から運転手さんのペシマで通勤されているから、その辺は心配ない。そして西台にあるだけにキャンパスからの眺望は最高で、晴れた日の夕方、河口の先の西の海に沈む夕日はたとえようのないほど美しい。

そしてキャンパス内には、張先生の研究室というか「学内オフィス」は少なくとも3か所あり。先生を務めるのは一若宮(?)でもないが、とにかく美しい先生なのである。

その3か所のひとつは、淡江大学が草創期に西船岡の学舎を持つていた跡地といふ「西船岡学舎」。そこには、西船岡の船体を模したような設計のビルで、1、2階に見事な船の模型などが展示され、その最上階(4階)に書法研究室がある。さて広くはないが、書法関連の図書等も完備しており、先生が淡江大と共に開発している「e書」開催の会議や実験なども、多くはここでのワーキングスペースが使われている。

そして次が、文鑑芸術中心(「展演室」)。ここは校長室が直轄する同人の音楽室・展演室など芸術分野の教室内施設で、展演室のオフィスには常時2名の秘書が常駐。張先生が学内で開催されるイベントのほとんどはここで開かれている。

3つ目の顕著な文化施設は、文鑑芸術センターがアーティストの李占洋先生の美術館だ。あくまでもここは中央美術院の創立された大根から、中央美術院制作が出来る静かな工作室となっている。



▲美術館の内部

▲美術館の外観